

岡崎式単床ブロック護岸について

茨戸川の岡崎式単床ブロック護岸が、平成27年度土木学会選奨土木遺産に認定されました

「茨戸川の岡崎式単床ブロック護岸」が、平成27年度土木学会選奨土木遺産に認定され、平成27年11月18日の土木の日(に)土木学会から認定書を受賞しました。

その報告として、11月19日に石狩市役所に伺い、田岡市長に「認定書とプレート」を披露し、受賞理由等について札幌河川事務所蔵倉所長から話題提供しました。

●土木学会選奨土木遺産

土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的建造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。

「茨戸川の岡崎式単床ブロック護岸」は、岡崎文吉が考案・敷設したもので、その技術は北海道開発に貢献し、さらには海外にも継承され、国内に普及している連節護岸の礎となった施設として高く評価され、今回の受賞となりました。



認定書と土木遺産プレート



受賞式で認定書を受け取る
石田部長と蔵倉所長



受賞報告をする蔵倉所長



田岡石狩市長に受賞を報告



プレートを石狩市民図書館に展示(左は図書館長)

●岡崎式単床ブロック護岸

明治43年、石狩川治水事務所の初代所長に就任した岡崎文吉は、当時、原始河川であった石狩川の河岸決壊防止に腐心し、初めて鉄筋コンクリートを用いた単床ブロックを考案し、河岸・河床を保護する護岸工法を開発しました。

この岡崎式単床ブロックの特徴は、安さ、強度と耐久性、施工性などに優れ、当時としては画期的な治水技術でした。

岡崎文吉が石狩川治水事務所長在任中の明治43年から大正6年には、石狩川(現在の茨戸川)で単床ブロック護岸が施工され、現在も一部が現存しています。

単床ブロック護岸は、その後も石狩川のほか天塩川、十勝川などの護岸工法として、昭和50年代まで施工が行われ、さらに利根川、鬼怒川など全国の河川に広まったほか、アメリカのミシシッピー川でも導入されました。

このような岡崎文吉の設計思想は継承され、現在も改良を加えられながら「連節ブロック」という形で全国の河川で生き続けており、我が国の治水事業に大きな貢献を果たしました。



岡崎文吉
明治42年頃の
肖像写真



茨戸川に現存する
岡崎式単床ブロック護岸
(大正6年度完成石狩市生振)



当時の岡崎式単床ブロックの施工状況

土木遺産認定を記念して、保管していた単床ブロックを事務所職員で復元しました。



(川の博物館 屋外)

お問い合わせ先



国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌河川事務所 第1工務課
〒005-0032 札幌市南区南32条西8丁目2番1号 TEL : (011) 581-3272